

III 社内外の評価及びご意見

1. 第15回 九州電力環境顧問会

2016年1月22日に「第15回九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

九州電力環境顧問会委員 (50音順、敬称略)



あさの なおひと
浅野 直人
福岡大学名誉教授
中央環境審議会会長



おおつか まさお
大塚 政雄
環境省環境力カウンセラー
(市民部門)



かど ひさよし
門 久義
鹿児島大学名誉教授



つる た さとし
鶴田 暁
九州地域環境・
リサイクル産業交流プラザ会長



なが た こ
詠田 トキ子
NPO法人
みやざきエコの会理事長



はやせ たかし
早瀬 隆司
長崎大学大学院 水産・
環境科学総合研究科 教授



会議風景

(注) 早瀬委員は都合により欠席されたため、別途ご意見をいただきました(顔写真は第14回(2014年12月)のものを使用)。ご所属は2016年1月時点で記載しています。

[ご意見の概要と対応方針]

主な意見	今後の対応方針
<p>【CO₂排出抑制への取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○低炭素社会実行計画の達成に向け、自主行動計画の枠組みの中で動いていくには縛りがあるが、電力自由化においては、困っている点を原因も含めて積極的に情報を開示し、個社の努力を表に出すことが必要ではないか。 ○環境の仕事を始めて25年ほどになるが、宮崎の川南町にバイオマス発電所(みやざきバイオマスリサイクル株式会社)があることを知ったのは3年くらい前である。 環境に配慮し、地域に貢献している取組みをもっと発信していくことが必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 早期に原子力発電所が再稼働したことや、地熱開発が他地域より進んでいることなど、当社のCO₂排出抑制の取組みでの強みや努力を分かりやすく環境アクションレポートに記載しています(P4・P13)。また、再エネ導入や省エネ推進等の抱えている課題なども合わせて示すことで、お客さまにご理解していただけるよう環境アクションレポートに記載しています(P3・P12)。 • 環境に配慮し、地域に貢献しているバイオマス発電などの取組みについて、環境アクションレポートに記載しています(P15)。また、積極的に情報発信やPRに努めていきます。

用語集をご覧ください

- >> バイオマス
- >> 低炭素社会

第15回九州電力環境顧問会	49
環境アクションレポートの読者アンケート	51
エコ・マザー活動におけるアンケート	52
環境に関するお問い合わせ等への対応	52
社外評価	52

社外ステークホルダーのご意見

多様な意見を取り入れる姿勢が大切である。

▶ P 49～50 第15回九州電力環境顧問会

III

社内外の評価及びご意見

主な意見	今後の対応方針
<p>【CO₂削減目標達成に向けた当社の取組み】</p> <p>○CO₂削減に向けた当社の取組みである「省エネ」について、エコキュート等の普及促進を含め、省エネ講座や次世代層向け教育を継続することで、お客さまに省エネの重要性をご理解していくことが大事ではないか。</p> <p>○エネルギー問題は、バイオマス、地熱、水力、風力などの自然と共存するエネルギーを活用することが重要であり、引き続き、再生可能エネルギーの推進に取り組んでもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○お客さまの省エネに貢献できるエコキュートの普及促進をはじめ、今後も引き続き、お客さまの省エネにつながる省エネ講座や、次世代層向けの教育でもあるエコ・マザー活動、出前授業などを実施することで、省エネの重要性を伝えていきます (P19・P34)。 ○国産エネルギーの有効利用や地球温暖化対策面で優れた電源である再生可能エネルギーへの取組みについては、中期経営方針及び環境アクションプランにて発電量目標を掲げており、グループ一体となって、地熱・水力を中心に、安定供給や環境性等を考慮しながら、国内外で開発を進めていきます (P9～10・P12)。
<p>【環境保全への取組み】</p> <p>○環境負荷低減に向けて努力している取組みについては、もっと具体的に環境アクションレポートへ記載すべきである。また、設備が古い火力発電所を稼働せざるを得ない状況や、これに伴い、CO₂、SO_x、NO_xなどの環境負荷が上昇している実情をしっかりとデータで示すことが必要ではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力発電所の停止により、古い火力発電所を稼働せざるを得ないことや、当社のCO₂排出量や大気汚染に繋がるSO_x、NO_xの排出量などの環境負荷が増大している状況について、お客さまにご理解いただき、環境負荷低減に向けた取組みの重要性をより認識していただけるよう環境アクションレポートにグラフやデータを使用して記載しています (P4・P7～8・P11・P27)。
<p>【再生可能エネルギー受入への対応】</p> <p>○九電の再エネ受入保留の話の話を聞いていると、太陽光発電の正当性を否定されているように感じるが、再エネは良いものであり、増やしたいが増やせないのはおかしいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギーの受入に対して、大容量蓄電システムによる実証試験やスマートグリッド実証試験など、受入量拡大に向けて取り組んでいることについて、お客さまにご理解していただけるよう環境アクションレポートに記載しています (P3・P16～17)。
<p>【地域と連携した環境保全活動について】</p> <p>○活動を継続するためには、地域との連携や地域の声を反映できる体制づくりが必要ではないか。</p> <p>○坊ガツルには、環境省の事務所があり、環境省にとっても非常に重要な阿蘇くじゅう国立公園に含まれていることから、環境省や周辺の行政(大分県、竹田市、九重町など)と積極的に連携し、環境保全活動に取り組むことで幅が広がるのではないか。</p> <p>○社外P Rについては、大分のテレビ局、新聞社だけでなく、九州全体に流れる福岡の放送局にも知ってもらうことで、幅が広がるのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年5月12日に、九州の豊かな自然環境の保全活動や環境教育活動、次世代の育成を支援する活動等を行うことにより、九州地域に広く貢献することを目的とした「一般財団法人 九電みらい財団」を設立しました。今後は、この財団を通じて長年にわたり地域の皆さまと取り組んできた大分県坊ガツル湿原での環境保全活動や、当社の水源涵養林を活用した環境教育を充実させていきたいと考えています (P32～33)。 ○これまでも、環境教育の参加者募集や環境保全活動の際、環境省くじゅう自然保護官事務所や竹田市、九重町と連携を図っており、今後も連携を継続していきます (P32)。 ○今後は、福岡のマスコミに取材要請を働きかけるなど、九州全体の認知度を高めていくとともに、SNSを通じて、お客さまのニーズを踏まえた魅力ある情報発信を実施していきます。

用語集をご覧ください

>>再生可能エネルギー
>>地球温暖化

>>SO_x (硫黄酸化物)
>>NO_x (窒素酸化物)

>>大気汚染
>>スマートグリッド

>>水源涵養

2. 環境アクションレポートの読者アンケート

2015年6月に発行した「2015九州電力環境アクションレポート」の読者アンケートを通じて、九州電力グループの環境活動のあり方などについて、525名の皆さまから貴重なご意見をいただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

2015年度は、「レポートのわかりやすさ」、「環境への取組みの評価」が、ともに2014年度より低い結果となりました。2016年度については、昨年度に続き、当社がお伝えしたい内容を「特集(P.3~4)」として紹介するとともに、読者の皆さまにより親しみやすくご理解いただけるよう、環境アクションレポートのダイジェストをあわせて発行しています。

九州電力への取組みについて、ご関心を持たれた項目と、その理由やご意見

(回答者数=525)

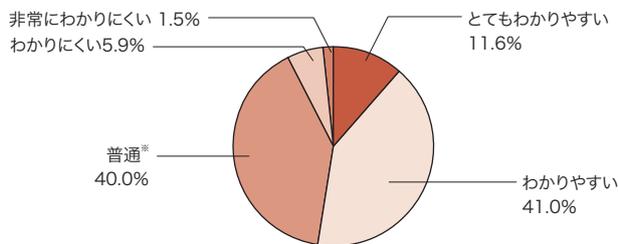
ご回答が多かった項目 (上位5項目)	選択数			主な理由・ご意見
	最も関心あり	関心あり	合計	
1 特集1 再生可能エネルギーへの取組み 九州の豊かな自然を活かした地熱発電の推進	130	75	205	・九州の特性を踏まえた取組みであり興味深い。 ・九州は火山も多く、地熱が利用できればいいと思うが、噴火の影響でどのようなことが起こるか心配である。
2 安全の確保を大前提とした原子力発電の活用	82	46	128	・原子力発電の意義など、電力供給における取組状況がわかりやすく記載してあるから。 ・良いことばかりではなく悪いところも記載してほしい。
3 お客さまの節電・省エネに関する取組み	59	70	129	・生活に密着している内容である。 ・身近な内容で興味が沸いたから。
4 原子力発電所の放射線管理	41	56	97	・放射能が意外に身近にあることや、管理が徹底されていることを知ることができるから ・原子力発電所を稼働する以上、最優先で取り組んでもらいたい。
5 再生可能エネルギーの開発・導入	38	69	107	・再生可能エネルギーを活用して、地球温暖化の防止等に貢献してほしい。 ・未来にわたっての重要課題だと思うから。

(注)「最も関心あり」の選択数で順位付け。最も関心ありは1つ、関心ありは4つまで選択可能。

[2015九州電力環境アクションレポート アンケート結果]

レポートのわかりやすさ

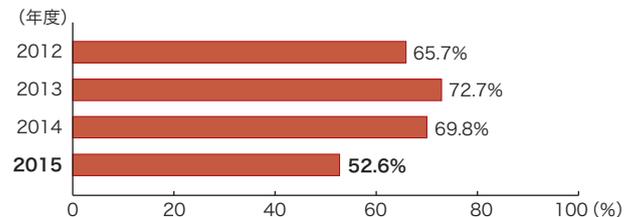
(回答者数=525)



[ご意見の経年変化]

レポートのわかりやすさ

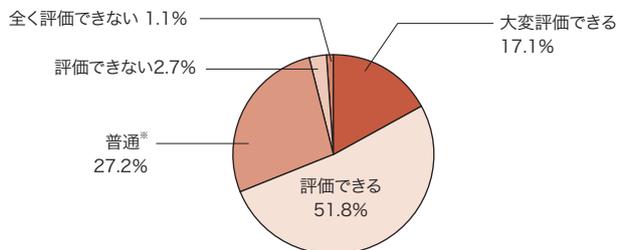
(回答者数=525)



(注)「とてもわかりやすい」、「わかりやすい」の回答割合。

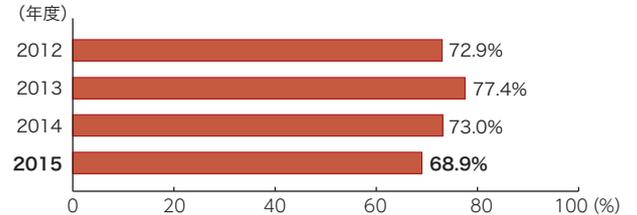
当社の環境への取組みに対する評価

(回答者数=525)



当社の環境への取組みに対する評価

(回答者数=525)



(注)「大変評価できる」、「評価できる」の回答割合。

※: 選択肢を2014年度から一部変更(「どちらともいえない」→「普通」)

用語集をご覧ください

>>地球温暖化
>>放射能

>>再生可能エネルギー
>>放射線

3. エコ・マザー活動におけるアンケート

保護者の方々と保育園等の先生を対象に、エコ・マザー活動(P.34)に関するアンケートを実施しています。

アンケートでいただいた貴重なご意見については、今後のエコ・マザー活動に活かしていきます。

<アンケート回答数>

保護者:3,973 保育園等の先生:180

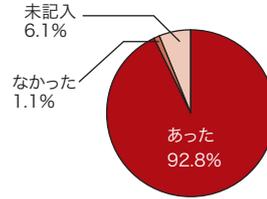
家庭での環境への取組み(保護者) (複数回答可)

Q:ご家庭で取り組む環境に配慮した行動について、エコ・マザーから子どもたちに伝えてほしいことは何ですか

○ 照明はこまめに消すこと	78.5%
○ 歯を磨く時に水を止めること	69.4%
○ テレビを見る時間や使い方の工夫	57.2%
○ シャワーをこまめに止めること	49.8%
○ 冷暖房の設定温度への配慮	46.9%
○ ゴみを極力出さないようにする工夫	36.3%
○ 使用しない時の家電製品のプラグ抜き	35.7%
○ エコバックの利用	32.7%
○ その他	2.4%

実施後の変化(保育園等の先生)

Q:エコ・マザー活動後に、お子さまに変化がありましたか



読み聞かせ後の子どもたちの変化(自由記入)

○ 節水するようになった	49.4%
○ 節電するようになった	40.6%
○ 節水・節電の声かけをしていた	12.8%
○ 環境紙芝居に登場する合言葉を言うようになった	12.2%
○ 「もったいない」と言うようになった	10.6%
○ 「CO ₂ が出る」と言うようになった	8.9%
○ 給食を残さないと言うようになった	8.3%
○ ゴみを分別したり減らすようになった	4.4%

4. 環境に関するお問い合わせ等への対応

環境に関する主なお問い合わせ内容と対応(2015年度)

項目	件数	主な内容	対応概要
ご質問他	8	当社の発電所が遵守すべき環境基準(SOx、NOx等)について	大気汚染防止法や自治体条例等で定められた排出基準の遵守はもとより、可能な限りの環境負荷排出抑制に努めていることをご説明。
		産業廃棄物とPCB処理状況について	当社から発生する産業廃棄物の内訳やリサイクルへの取組状況に加え、PCB特別措置法にて定められた処理期限に向けたPCB廃棄物の処理計画についてご説明。
		当社のCO ₂ 排出量(東日本大震災前及び最新の値)について	2010年度(東日本大震災前)から2014年度(最新)までの排出量についてご回答。

5. 社外評価

社外評価

評価名	主催者	実施時期	当社の評価
第19回「企業の環境経営度調査」	日本経済新聞社	2015年9月～11月	6位/13社(電力・ガス部門)

社外表彰

表彰名	対象	実施団体	受賞年月
省エネ推進功労者	刈田発電所所員 豊前発電所所員	(一財)省エネルギーセンター九州支部・九州地方電力効率化協議会	2016年2月
耳川水系総合土砂管理「耳川をいい川にする～森林とダムと川と海のつながり～」	耳川水力整備事務所	(公社)土木学会	2016年6月

用語集をご覧ください

>>SOx(硫黄酸化物)

>>産業廃棄物

>>大気汚染

>>NOx(窒素酸化物)

>>PCB(ポリ塩化ビフェニル)